

平成元年度の予算と事業計画

島根県立図書館長 白 枝 祥 男

我が国経済は引き続き好調であり、また労働時間短縮の歩みは早く、週休二日制が定着しつつあります。このような情勢のなかで、国民生活には新しい余暇が生れて来ており、すべての余暇は楽しく豊かにそして充実したものになることが期待されています。

生涯学習の必要性和まりは、西欧並みの余暇の追求に連動しており、図書館の占める重要性はますます大きくなっております。

島根県立図書館では、「島根県読書普及振興計画」に基づき、読書普及活動の促進、読書施設未設置市町村の解消、当館自体の機能の充実等に努めて来ました。そして、市町村立図書館の新設、町村図書センターの設置、親子読書・子供読書活動の普及、当館のコンピューター導入、西部読書普及センターの発足など着々と成果をあげて来たと言ってよいでしょう。とりわけ、親子読書活動と子供読書活動は、全県的な広がりをみせています。

平成元年度は、第3次「島根県読書普及振興計画」の開始の年度にあたります。第3次計画の内容は、第1次及び第2次の計画の実績の上に立って、特にソフトの面において、積極的に読書普及振興のための事業を推進しようとするものです。コンピューターの導入、収蔵能力の拡大、西部読書普及センターの設置などハードの面の整備は一応終了したことにとともに、これからは、それぞれの施設などを如何に有効に利用して、新しい時代の県民のニーズに可能な限り応えて行かなければなりません。したがって、平成元年度の予算は、前年度予算に比べ

て、予算的に特に増額されたり、突出したものではありません。しかし、今こそ限られた予算を最大限に活用し、最大の効果をもたらすように努力することが当館のライブラリアンに求められています。

平成元年度予算に係る主要経費は、資料購入費、電算関係業務費及び子供読書普及事業費の三本立です。

① 資料購入費 (19,575千円)

情報化社会における情報の提供並びに生涯学習の場をつくるため、多種多量の資料を購入することとし、館内用4,500冊、館外用6,500冊及び雑誌等(300万円)の合せて約2,000万円を計上しています。県立図書館としては、この予算額は不十分なものであり、今後とも増額となるよう努力したいと思っています。

② 電算関係業務費 (19,666千円)

所蔵図書資料とその資料の情報を活用するためのトータルシステムを本年4月から全面的に移動することとしています。レファレンスに対応出来る対象冊数は3月末までで10万6千冊となっています。貸出・返却のサービスは、よりスピーディとなることでしょう。

③ 子供読書普及事業 (1,756千円)

地域における小学生を対象とした読書グループの育成と子供文庫の設置による普及活動などのため、指定されたモデル町村(S63～H2) 宍道町、伯太町、佐田町、温泉津町及び瑞穂町について、指導員の派遣、図書の貸出などにより、子供読書普及活動を促進することとしています。

公共図書館めぐり⑪

佐田町立図書館

簸川郡佐田町大字反辺1.747-6
TEL (0853) 84-0019

佐田町立図書館が開館して以来8年が経過し、その間蔵書冊数は5千5百冊から出発し現在は1万7千冊を越える程に増冊し、県立図書館からの借り入れ図書も含めて、書架の85%をうずめるまでになりました。佐田町民憲章に「心身ともに健康な若い力を育て高い教養と文化の町をつくります」の一項があります。これを受けて開館以来、館内の貸し出しはもとより、その他学校への移動図書館業務、又古文書を読む会、短歌会、成人読書会等各種教室を開設し、町民憲章にある高い教養と文化の町づくりに努めているところです。貸し出し率も毎年町民1人当たり2冊を越え、当面の目標は達成致しましたが、なお、2.5冊から3冊へと読書率の向上に向け、図書館員として静かな闘志を燃やしているところです。

古文書を読む会、短歌会合同の移動教室



安来雲樹寺にて

最近の児童、生徒は、読書離れの傾向にあるとよく耳にしますが、御多分にもれず佐田町におきましても、児童図書の貸し出しが全体の半数弱を占めるのにもかかわらず、小学校の高学年から中学生にかけての範囲が読書離れしている事は事実のようです。部活と試験勉強におわれ、読書は夏休みの宿題「読書感想文提出」のためやむをえずなのか、夏休みの後半に入ると中学生の姿が図書館に多く見られるようになります。しかしこのような実態の中にありましても、読む児童・生徒は確かな歩みで読書を自分の血とし肉として豊かな感性を養っています。この差が出てくるのが、小学校の4年～5年からのように思えます。これを防ぐのには、幼児の頃から本に接する機会を与え、読み聞かせをしっかりと行い、1人読みへとの一連の作業の初歩の段階「読み聞かせ」

から「親子読書」の基礎作りが重要と思います。

過日、小学校の低学年の児童を持つお母さんが来館され、「男の子は会話が断片的で何を言おうとしているのかつかめなくて困ります。そこで考えついていたのが、夕食のあとかたづけをしながら兄妹2人にかわるがわる本を読ませ、読み終えたあと、私と3人で内容についてあれこれ話し合いをすることにしたんですよ。これを続けることにより子供の会話が少しでも上達すれば、そして読書好きになってくれるならと願ってます。図書館でも子供読書の会ができれば入会したいのですが」との苦心談と要望を聞きながら、「家事をしながらの親子読書」私はそのほほえましく暖かな場面を空想し、各家庭で行われている読書の輪を広げることが出来れば、と痛感致しました。そこで佐田町立図書館では、各種成人教室は順調に流れる中、子供を対象とした教室がなかったため、何か開設したいと願い、昭和62年度より2月に1度の周期で「子供読書会」を開始することになりました。県立図書館からの指導、助言を受けながら本当に手さぐり状態で1年が過ぎ、2年目は、会員も25名から35名に増えて、子供達からの積極的な意見、要望も出るようになりました。会の最後には子供達と反省、そして、次会への取り組み等について話し合いを行い、一体となった「子供読書会」を運営して行きたいと思っております。そして初心者マークをつけたこの空席の目立つ車が、大きな事故を起こさないよう注意しつつ、1年～6年までという（現在対象は1年～3年）子供達の積極的な要望に答えて年々客席を満たし、途中急ブレーキをかけて止まらないよう合わせて注意をし、この子供達がやがて父親・母親になった時、今養った感性が次代に引き継がれていくことを期待して息長く安全運転を続けたいと思っております。

最後に、図書館員は、図書館業務を事務的に消化するだけではなく、子供から老人まで幅広い年齢層とのつき合いの中で、よりよい人間関係を確立していくことが何よりも大切な事を痛感致しております。

(文責 寄藤勅枝)

読 書 雑 感 (読書体験記入選作品)

那賀郡金城町 石、田 邦 夫

戦後我が国は文化国家建設を標榜し学問、芸術等文化全般が大切にされ、その一つに人間形成に資するものとして読書指導がなされるようになった。しかし戦前戦中はこのようなことは無く、その頃青少年期を送った私達には読書の世界とは遠いものであった。小学校時代はその頃出ていた少年倶楽部が唯一の読書欲を満たしてくれるものであった。これとて毎月買ってはもらえず、友人から借りて読んだもので、その時の心の昂ぶり楽しみは大きなものであった。学校においても読書について指導する教師は少なかった。

戦後読書が自己の精神形成に大きな役割を占めることや、必読の書等を初めて知らされたようなことであった。戦後最初に出た昭和文学全集により初めて文学作品に出会ったものである。その頃元一高校長であり文相でもあった安倍能成氏の著書に出会い、青年期の私の精神形成に影響を受けた。また文学史で学習した古典に出会う機会に恵まれた。岩波書店刊行の日本古典文学大系であった。これにより戦中僅かに学び浸り得た文化の灯、万葉集を読み返したり、西鶴の面白さに触れたり、中でも山岸徳平氏校注の源氏物語を年1冊配本で全5冊を5年かかって読み終えたことが印象に強い。このことにより古典が勉強や受験の具として読まれるものではなく面白い読み物として接するものであることを知らされた。これらは現代小説以上に面白かったからである。これは私の30代の初め頃で出勤の鞆の中に入れ、通勤の車中で1帖を数日位かけて読み進んだものであった。

また、その頃ロジェ＝マルタン・デュ・ガールの「チボー一家の人々」とトルストイの「戦争と平和」が印象に残る。両者とも大部なものであったが、それは水量豊かな大河を行く思いで長編物の楽しさを与えてくれた。「チボー一家の人々」では第一次世界大戦におけるチボー家の兄弟の戦争や平和に対する息

詰まる対話やその生き方に、また「戦争と平和」ではとても1人の作家の作品とは思えぬ雄大さにロシアの風土の香りさえ感ずる思いであった。この他に寺田寅彦、中谷幸吉郎、湯川秀樹氏等の随筆も科学を面白く理解する上に大きなものがあったと思う。

私は幸いに誰に強制されることもなく読書の世界に入り得た。これは感謝すべき運命であったと思う。読書は本来かくあるべきものと思う。それは自由であり、自己の選択による読書である。そしてそれは次々と枝葉を伸ばして読書の世界を拡げてくれる。その為に必要なのは書評や紹介の文章である。これらは人から説かれるよりも文章の形で示されるのがよい。それを知る為には読まねばならず読書活動の第一歩がそこにある。

読書が喜びや楽しみであり、しかもそれを享受する裡に知らず知らず自己の人格形成や知恵、知識の蓄積拡大に資する結果を生む、これが最も願わしい読書の姿であろう。その為には前に述べた如くその根本に自由があり、選択の自主性が喜ばれることである。何々の為の読書というのは本当の読書ではなからう。この故に戦後読書についてその価値を認め、指導されるようになったのは良いが、一面学校の児童生徒に読書感想文等を課したことは読書を窮屈な苦役と思わせはしなかったかと慮るものである。読書は唯小中高校の児童生徒のみ大切ではなく一生涯に続けていくものである。学校ではしっかり勉強し余力あれば読書というので結構と思う。何より大切なのは良い図書や著者との巡り会いであろう。これは人と人との出会いと同様深い因縁を感じしめるものである。読書指導がかかる観点からなされるならば最上であろう。たとえ良書でも義務や強要であってはならず、その根底にリベラルな世界がなくてはならないだろう。これは読書が人間最高の喜びの一つであり、その副産物として知らぬ間に大きな宝を与えられる、このような読書を願うが故である。

県立図書館の電算システムの概要

長期にわたって進めてきた島根県立図書館の電算化事業も、平成元年4月の貸出システムの稼働によって、いよいよ本格的なサービスを開始することになります。今後の課題としては県内市町村図書館等とのオンライン化や未入力図書のデータ作成などがありますが、一応の区切りがついたところで、本システムの概略を述べてみます。

〔システムの概略〕

本システムはLIMS2 (Library Information Management System 2) という名称の富士通が作成した公共図書館業務用の標準パッケージを主体として、典拠ファイルシステム、発注・受入システム、その他検索機能の追加等を開発して作りあげたものです。パッケージの規模は市立図書館向きにできていますが、典拠ファイルシステム等の機能を追加したことにより、きめ細かい情報検索にも耐えうるものとなりました。対象業務は貸出や情報検索等の窓口業務、図書や雑誌の受入・目録作成等の資料管理業務、統計や蔵書点検等の内部管理業務です。図書の選定や利用案内など機械化の困難な分野を除いてほぼ網羅されています。

(1) 窓口業務システム

ア. 貸出業務

ア) 利用者登録

初めて貸出を受ける方には貸出登録申込書に記載してもらい、画面で氏名、住所等のデータを入力し、バーコード付きの図書貸出カードを発行します。一度入力すれば以後当分の間登録しなおすことはありません。

イ) 貸出・返却

図書貸出カードのバーコードと、図書のバーコードをスキャナーで走査することにより、誰がどの図書を借りたかが記録され、貸出の管理がなされます。この記録は返却時に図書のバーコードを走査することにより消去されるので、利用者のプライバシーは十分に保護されます。

ウ) 予約

従来不十分だった貸出希望図書の予約処理が非常に簡単にできるようになります。

エ. 情報検索業務

当館が所蔵している図書資料を検索キーを使って検索し、詳細な情報を画面に表示させるものです。

ア) 検索キー

検索のキーとしては次のものがあります。

① 書名又は書名中の単語

② 著者名 著者名は著者名典拠ファイルによって同名異人、同人異称等の統制がなされます。

ヘルン→小泉八雲 森林太郎→森鷗外

③ 件名 件名は件名典拠ファイルによって語間の参照付けがされており、自動的に統一された語で検索したり、関連する他の語で検索するよう指示したりします。

庭球→テニス 気象災害→：水害

④ 分類

⑤ 出版者名

⑥ 出版年 「何年から何年まで」「何年以降」のように、条件を付けて検索することができます。

(イ) 検索方法

検索キーを組合せて検索を進めていくことができます。

① キーを掛け合わせる方法 (AND検索)

幾つかの特徴を同時にもっている情報が欲しいときに使います。通常は検索結果の件数が多いと思われる場合に、別のキーで絞り込むときに使います。

(例) 著者が「村上春樹」で、出版年が1985年以降の図書の検索

ムラカミ、ハルキ×1985-

② キーを足していく方法 (OR検索)

いくつかの特徴のどれかをもっている情報が欲しいときに使います。通常は比較的網羅的に検索しようとするときに使います。

(例) 書名中に「公害」という語を含み、分類が

519 (環境工学) である図書の検索

コウガイ+519

(2) 資料管理業務

ア. 図書および雑誌の発注・受入

イ. 目録作成 ウ. 各種目録リストの作成

(3) 内部管理業務

ア. 利用統計、蔵書統計、その他各種一覧表

イ. 蔵書点検

平成元年度 県立図書館各種講座受講者募集！

講座名	萬葉集を 読む会	出雲国風土記 を読む会	古文書を読む会		図書館 成人読書会	図書館 子供読書会
			入 門	上 級		
開催日	毎月 第2木曜日	毎月 第2金曜日	毎月 第1土曜日	毎月 第3土曜日	毎月 第2火曜日	毎月 第4土曜日
時 間	14:00 } 16:00	13:00 } 15:00	13:30 } 15:30	13:30 } 15:30	13:00 } 15:00	14:00 } 16:00
講 師	島根大学 名誉教授 小原幹雄	島根女子短期大学 教 授 藤岡大拙	郷土史家 桜木 保	島根女子短期大学 教 授 藤岡大拙		県立図書館職員
募集人員	50 名	50 名	50 名	50 名	50 名	30 名
対 象	一 般	一 般	一 般	一 般	一 般	小学生
内 容	現存する最 古の歌集「萬 葉集」の講読 と鑑賞を行 います。 原文の解読 にとりくみつ つ古代文化の 精髓にふれる 講座です。 テキスト 「萬葉集二」 (新潮社 日本古典集成) 新潮社発行	わが国でた だ一つの完本 として残って いる「出雲国 風土記」を講 読しながら古 代出雲の実相 を把握し、郷 土のもつ深い 歴史性を理解 する講座です。 テキスト 「出雲国風土記」 加藤義成著 報光社発行	古文書の読 解を初歩から 手ほどきしま す。 テキスト 毎月当館で印刷したもの 代金は6ヶ月毎に600円	入門講座を 終えた程度の 読解力をもつ 人が対象です。 テキストの 読解はもとよ り、史料の背 景をなす郷土 の歴史に及ぶ 講座です。	参加者で10 人前後のグル ープを編成し、 各グループ毎 に同一本を読 み、意見の交 流をします。 グループで 話し合うこと で、人生や社 会に対する見 方、考え方が 豊かになり、 個人の読書生 活が深まりま す。 テキスト 「成人読書会 用図書」	毎月グルー プで同じ本を 選んで、各家 庭で読みます。 翌月、図書館 職員を交えて 読んできた本 をもとに語り 合います。仲 間と読むこと により、ふれ あいを深め、 読書の巾を広 げます。 テキスト 「子供読書会 用図書」

- 会場は、いずれも県立図書館集会室です。
- 受講料は、無料です。
- 申込方法は、直接、又は、はがきか電話で「受講希望講座名、住所、氏名、電話番号」を
〒690 松江市内中原町52 島根県立図書館奉仕係 TEL0852-22-5734

郷土資料収書状況 (昭和63年度抜粋)

哲学・宗教

「古代出雲と死者の世界」神田典城著 大陸書房
「島根の寺院」白神尚彦編刊

地域誌

「布施村誌」布施村編刊
「日原町史自然編」日原町編刊
「六日市町史第2巻」六日市町編刊
「羽須美村誌」上・下 羽須美村編刊
「津和野郷土誌」内藤正中 森澄泰文著 松江文庫
「隠岐一ふるさと案内記一」神村信幸著 臨川書店
「新町物語」安来市新町物語特別委員会編刊
「法吉村誌」内田映著刊

古代・中世史

「出雲王卑弥呼」毛利康二著 彩流社
「出雲神話から荒神谷へ」原島礼二編 六興出版
「山陰の鎌倉出雲広瀬」音羽融著 推古山房
「中世の城砦」平田正典著刊

伝記

「島根の人物ものがたり」島根県国語教育研究会
「塩冶判官高貞」藤岡大拙著 出雲市教育委員会
「名字と門名」馬庭克彦著 出雲市教育委員会

地理・地名

「ザ・山陰」妹尾河童編 平凡社
「A LONG THE SANIN (山陰路英文ガイドブック)」ジェフ・ダゲット著 出版委員会
「出雲市地名考」上・下 永田滋史著 出雲市教委

政治・行政

「リフレッシュ・リゾートしまね構想、海と山のフロンティア構想」島根県編刊
「庁舎は語る一松江警察署発足110年記念誌」松江警察署編刊

「島根県町村会七十年史」島根県町村会編刊

社会・労働

「島根県職労四十年史」島根県職労編刊
「島根県教職員組合40年史」島根県教職員組合編刊
「浜田市職員労働組合四〇年史」浜田市職労編刊
「ウランバトルの灯みつめて五十年」春日行雄編
モンゴル会

「歩兵第百六十三聯隊史」同書刊行委員会

教育

「校誌(出雲二中)」出雲二中編刊
「資料にみる矢上高校40年の歩み」矢上高校編刊

「創立四十周年記念誌」浜田水産高校編刊

「閉校記念誌山脈」益田農林匹見分校編刊

「島根女子短期大学三十五年史」島根女子短大編刊

「中学生の目と心」永見哲哉著 広樹社

民俗

「畑作の民俗」白石昭臣著 雄山閣
「江の川流域の民俗と伝承」白石昭臣著 ぎょうせい

自然科学

「島根のさくら」吉野番人著刊
「宍道湖・中海とアオコ」伊達善夫著 たたら書房

医学

「八束郡医師会史」八束郡医師会編刊
「島根県保健所開設50年記念誌」松江保健所編刊

工学・産業

「出雲の郷に架かる橋神立橋」永田鉄雄著刊
「松江水道史」松江市水道局編刊
「水の時代をひらく」木原啓吉著 LGC総合研
「石見銀山」石村禎久著 石見銀山資料館
「農民運動雑録」木村栄著刊
「樹木の島根方言」沖村義人著刊
「林業技術センター50年史」林業技術センター編刊

芸術・スポーツ

「島根県写真史」島根県写真協会編刊
「高橋鱸司長信の研究」安部吉弘著刊
「島根県武道連盟20周年記念史」島根県武道連盟刊

方言

「出雲弁早わかり」柳浦豊実著刊
「茶呑ばなし」錦織雅紘著 出雲新聞社

文学・その他

「鷗外印譜」森鷗外記念会編刊
「閉じられた海図」古川薫著 文藝春秋
「密閉教室」法月綸太郎著 講談社
「近代文学としての明治漢詩」入谷仙介著 研文出版
「小泉八雲とカミガミの世界」平川祐弘著 文藝春秋
「小泉八雲の妻」長谷川洋二著 今井書店
「蝶の幻想」小泉八雲著 長澤純夫編訳 築地書館
「文化講演集」島根大学教育学部同窓会編刊

(当館郷土資料室では、島根県に関する資料の収集整備に努めています。出版情報等、ご存じでしたら係までご連絡くださるようお願いいたします。TEL 0852-22-5742)

読書活動にご利用ください

西部読書普及センター

浜田市長沢町1,550—1

電話(0855)23—6785番

〇はじめに

本県は東西に細長く、県立図書館(本館)は東の端、松江市にあり、県西部の皆さんには直接来館し利用することは縁遠い公共の文化施設でした。

そこで昭和61年4月、長い間の懸案でありました県西部の浜田市にこの読書普及センターが、教育センターに併設されオープンしました。施設は書庫(図書5万冊収納可能)とレクチャースペースなど277㎡、事務室34㎡であり、職員が2名で運営しています。

〇業務の紹介

このセンターでは、どんな業務がどのように行われ利用されているのか、皆さんにお知らせし今後一層の活用を期待しています。

1. 読書普及事業について

この事業には、親子読書、子供読書、成人読書の活動があり、市町村の読書活動と相互に協力し合いこれに必要な図書の貸し出しや職員の派遣を行い活動の育成援助を行っています。

(1) 親子読書＝親が子どもに絵本を読み聞かせをすることは、子育てに欠かせない事です。1冊の絵本をとおして親子がふれあい、子どもの心を育て読書の習慣を養い、子どもたちがすばらしい本と出会うことを願っています。

(2) 子供読書会＝親子読書で育った子供たちは、やがて自立読書をめざし、地域の読書普及ボランティアの人や友達でグループを作り、同じ本を同時に読み思ったこと感じたことを話し合う仲間読みをし、読書を一層楽しいものにするのです。

(3) 成人読書会＝グループ読書で、1人読みでは味わうことのできないものを見いだします。また自分にとって身近な作品がテキストになった場合は感じたこと思ったことが素直に話せ、やがてグループの人達は何事も打ち明けられる、そんな仲間作りに発展することもあります。

これらの活動に必要な子どもたちに親しまれる本や読書会用として同じ本15～20冊をセットにし貸し出しを行っています。

また事業を推進するためにボランティアとして活動される方々や図書館、社会教育の関係者で研修の場

を設け読書普及の推進に努めています。

西部読書普及センター



2. 図書館等読書施設への協力について

(1) 図書館資料の提供＝市町村の読書施設で地域の人々から要求される資料の問い合わせや読書施設に備えるための図書選定の相談等を受け、本館の協力を得て要望に沿う資料の提供に努めています。最近取扱った問い合わせから

- ・郷土資料の収書にあたり入手可能な資料は
- ・子どもにとって良い本とはどんな本か
- ・高校生がボランティア活動を行うための参考資料は
- ・恐竜について授業をするが参考になる本を
- ・ホタルが主人公になった物語の本は
- ・図書館建築の参考資料は

(2) 図書センターの育成＝町村読書施設の拡充と図書館設置の気運醸成のため図書の大量貸出と業務の援助。現在、金城町、川本町、三隅町に設置し図書館作りに取組んでいます。

(3) 図書館等の運営相談＝図書室書架の高さや書架間隔について、資料の整理方法、拡大読書機などさまざまな問い合わせがあります。

3. 一般住民の方々の利用について

当センターは、個人への貸し出しはできませんが地域や職域でまた学校などの団体に対し100冊までを3カ月以内の条件で貸出利用することができます。町内や団地で、職場の仲間等で子どもの本や一般の普及書、実用書を現在約50団体で利用されています。

本会の発足は昭和41年6月、毎月1回の定例である。会の中心である林光博先生の真摯な「生きざま」に惹かれ、心服している同志が、読書という共通の場を通して、人生を学び、共に研鑽を深めている。昨今取り上げられている「生涯学習」を先取りして22年前に発足し継続しているグループである。

テキストに取りあげてきた本は、「芦田恵之助選集」「森信三全集」「ベスタロッチ」「典座教訓」などの教育書。「万葉集」「古今和歌集」「平家物語」などの古典。「天平の甍」「敦煌、楼蘭」などの文学書。郷土の偉人「川上清吉」「島村抱月」などなど。

現在取り組んでいるテキストは「源氏物語」。一度は読みたいと思っていた古典だけに、じっくりと味わいたいと励まし合っている。

ちなみに次の読書会の案内を次のように落とし、その準備に取り組んでいる。

第267回 相生読書会ご案内

袖ぬるる露のゆかりと思ふにも
なお疎まれぬやまとなでこ

3月の読書会を下記のように開催いたします。ご多忙のことと存じますが万障繰り合わせご出席下さいますようお願い致します

当番 川 崎 吉 郎

記

1. 日 時 3月11日(出)

読書会グループ紹介 私達のグループと読んだ本 ⑫ 相生読書会

2. 場 所 浜田市立石見公民館
3. テキスト 源氏物語 1 P368~407
(紅葉賀 花宴)
4. プリント 20部(感想抜粋等)
5. 会 費 400円 以上

源氏物語の奥底を流れている真髓には人間の原罪の悲しさがあると学び、大自然の中に生かされている人間の「易と不易」を思う平成元年、春の読書会である。声に出して朗読してみたり今月も待たれる読書会である。

相生読書会の300回は、「源氏物語」完了の記念になるようにと励まし合っている。

尚読書会がここまで続けられた要因の一つは林先生奥様の陰の支えがあったことも感謝している。

63年7月の水害で相生町は甚大な被災で、林先生のお宅も床上浸水。以後公民館を借りているがそれまでは奥様の温かい真心に迎えられて家族同様のおつき合いは、会員一同の生活にとけこんでいる。

年令、資格を要しない、読書を愛し、人生を愛する人の入会をごばまない善人の集まりの相生読書会である。

グループ名 相生読書会
会 員 数 14名
代 表 者 林 光 博

NEWS

☆昭和63年度(後期)市町村読書普及研修会の開催 (2月20日・23日)

子供読書モデル終了町村の事例発表を中心にして、2月20日県立図書館(松江市)、2月23日西部読書普及センター(浜田市)の2会場で開かれた。

参加者は子供読書指導員、ボランティアを中心に東部110人、西部70人であった。

研修内容

- 子供読書会運営の実際(モデル町村)
- 子供読書のとりくみについて(県立図書館)
- 楽しい人形劇の演出(県立図書館)
- 子供読書会用図書の見方(事例発表と協議)

☆島根県公共図書館等施設職員研修会の開催(3月7日)

今年度2回目の研修会を3月7日県立図書館集会所において「よりよい図書館運営をめざして」をテーマに開催した。午前中は、「特徴ある図書館運営をめざして(出雲市立図書館)」、「図書館の現状と悩み(木次町立図書館)」、「よりよい図書館活動の推進をめざして(佐田町立図書館)」、「町民のための図書館をめざして(六日市町教育委員会)」について事例発表を行い、午後は発表をまじえてパネル方式による討議を行った。

参加者は約45名、熱心に研修にとりくんだ。

☆人形劇をご利用下さい!

人形劇の道具一式とカセット(せりふ入り)を貸出しします。県立図書館普及係(TEL0852-22-5730)へ申込み下さい。

タイトル	登 場 す る 人 形	カセット 所要時間
あかざんちゃん	・赤ざん ・お母さん ・おばあさん ・狩 人 ・おおかみ	20分 県図で吹き 込んだもの
かに子ちゃんと さるとん	・かに子ちゃん ・さるとん ・うすどん ・はちどん ・くりどん ・うんこどん	20分 ◇
三 枚 の お 札	・小僧 ・和尚 ・おばば ・山ノ婆	20分 ◇
ねずみのよめいり	・ちゅう子 ・お母さん ・お父さん ・お嬢さん(お父さんと二役)	17分 ◇
ば け く ら べ	・きつね ・たぬき ・花 嫁 ・侍 ・かさつきけたおばけ ・まきぐそ ・まんじゅう	20分 ◇
まんまるパン	・まんまるパン ・おしいさん ・おばあさん ・うさぎ ・おおかみ ・くま ・きつね	20分 ◇
わんわん物語	・犬……8匹 ・猫……2匹	15分 市販品

スライド、オーバーヘッドについても貸出しをしますのでお尋ね下さい。